9 畜産経営災害等総合対策緊急支援事業（家畜防疫互助基金支援事業）

伝播力が極めて強い口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が発生した場合に、経営再開等までに必要な経費を相互に支援することにより、防疫措置の円滑化及び異常発見時の早期の届出を促し、もって畜産の安定的な発展を図るため、全国を区域として下表に掲げる事業を実施

[留意点]

- ① この事業については、事業の内容欄に掲げる取組を単独で応募することはできないが、牛、豚並びに鶏、うずら、あひる、きじ、ほろほろ鳥、七面鳥及びだちょう（以下「鶏・その他家きん」という。）の畜種ごとに応募することができる。
- ② 補助金予定総額：170,765千円（令和6年度分。ただし、アの（ア）の事業を除く。）
- ③ 実施期間：本事業の実施期間は令和6年度から令和8年度までとする。
- ④ 実施期間における生産者積立金の単価（案）及び互助金交付上限単価（案）は別表のとおりとする。

事業の内容	補助金の予定額	補助率
<p>(1) 家畜防疫互助基金支援事業</p> <p>【事業の基本情報】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① [互助金の交付財源割合] 畜産経営体：国＝1：1 ② [交付対象者] 家畜防疫互助契約を締結した畜産経営体 ③ [対象家畜の種類] 牛、豚並びに鶏・その他家きん ④ [家畜防疫互助契約] 応募団体と畜産経営体が締結 ⑤ [生産者積立金] 契約対象頭羽数に応じて徴収 ⑥ [生産者基金の管理] 生産者積立金を基金として造成し、牛、豚、鶏・その他家きんの生産者積立金ごとに区分して管理 		

事業の内容	補助金の予定額	補助率
<p>ア 家畜防疫互助事業</p> <p>(ア) 互助金交付事業 対象疾病が発生した際に交付対象者へ互助金を交付</p> <p>(イ) 互助金交付認定事業 対象疾病が発生した際に互助金の交付単価等を認定するための会議の開催、現地調査等を実施</p> <p>イ 家畜防疫互助等推進事業 アの業務を円滑に実施するための推進会議の開催、事業の普及、啓発活動、調査、指導及び事業の推進を実施</p>	<p>アの (ア) の事業 2,755,578 千円以内 ただし、対象疾病の発生により、補助対象者への互助金交付が必要となった場合にのみ、上記金額を補助上限額として必要額を補助する。</p> <p>アの (イ) の事業 7,537 千円以内 ただし、対象疾病の発生により、補助対象者への互助金交付が必要となった場合にのみ、上記金額を補助上限額として必要額を補助する。</p> <p>イの事業 163,228 千円以内</p>	<p>1 / 2 以内</p> <p>定額</p> <p>定額</p>

【別表】

○生産者積立金の単価（案）※公募開始時点（1/15）の案である

家畜の種類	契約区分	家畜の区分	生産者積立金の単価	
牛	—	1 乳用牛（水牛（食用生産に係るものに限る。）を含む。）	1 頭当たり	245 円
		（1）乳用牛（24 か月齢以上のもの）	1 頭当たり	90 円
		（2）乳用牛（24 か月齢未満のもの）		
		2 肉用牛		
		（1）肉専用種繁殖雌牛（24 か月齢以上のもの）	1 頭当たり	235 円
		（2）肉専用種繁殖雌牛（24 か月齢未満のもの及び肉専用種繁殖雌牛になることが見込まれる子牛を含む。）及び肉専用種肥育牛（肉専用種肥育牛になることが見込まれる子牛を含む。）	1 頭当たり	125 円
		（3）肉専用種と乳用種の交雑種（以下「交雑種」という。）肥育牛（交雑種肥育牛になることが見込まれる子牛を含む。）	1 頭当たり	95 円
		（4）乳用種肥育牛（水牛（食用生産に係るものに限る。）を含む。また、乳用種肥育牛になることが見込まれる牛を含む。）	1 頭当たり	90 円
豚	家族型	1 繁殖用種豚（雌）	1 頭当たり	340 円
		2 繁殖用種豚（雄）	1 頭当たり	340 円
		3 と畜場に出荷される肥育豚	1 頭当たり	60 円
	企業型	1 繁殖用種豚（雌）	1 頭当たり	380 円
		2 繁殖用種豚（雄）	1 頭当たり	380 円
		3 と畜場に出荷される肥育豚	1 頭当たり	70 円

鶏	家族型	1 採卵鶏（成鶏 120 日齢超）	1 羽当たり	7.5 円
		2 採卵鶏（育成鶏 120 日齢以下）	1 羽当たり	3 円
		3 肉用鶏	1 羽当たり	0.2 円
		4 種鶏（成鶏 ※）	1 羽当たり	9 円
		5 種鶏（育成鶏 ※）	1 羽当たり	4 円
	企業型	1 採卵鶏（成鶏 120 日齢超）	1 羽当たり	10 円
		2 採卵鶏（育成鶏 120 日齢以下）	1 羽当たり	4 円
		3 肉用鶏	1 羽当たり	0.3 円
		4 種鶏（成鶏 ※）	1 羽当たり	12 円
		5 種鶏（育成鶏 ※）	1 羽当たり	6 円
うずら	—	1 羽当たり	1.5 円	
あひる	—	1 羽当たり	2 円	
きじ	—	1 羽当たり	2 円	
ほろほろ鳥	—	1 羽当たり	2 円	
七面鳥	—	1 羽当たり	2 円	
だちょう	—	1 羽当たり	190 円	

※ 種鶏の成鶏、育成鶏の日齢については、家畜防疫互助契約において契約対象農場毎に定める日齢とする。

家畜の種類、契約区分及び家畜の区分	交付上限単価	
(ウ) 肥育豚 (21日齢以上のもの)	1頭当たり	10,000円
イ 企業型		
(ア) 繁殖用種豚 (雌)	1頭当たり	56,000円
(イ) 繁殖用種豚 (雄)	1頭当たり	56,000円
(ウ) 肥育豚 (21日齢以上のもの)	1頭当たり	11,000円
(4) 鶏		
ア 家族型		
(ア) 採卵鶏 (成鶏 120日齢超)	1羽当たり	790円
(イ) 採卵鶏 (育成鶏 120日齢以下)	1羽当たり	370円
(ウ) 肉用鶏	1羽当たり	25円
(エ) 種鶏 (成鶏 ※1)	1羽当たり	1,020円
(オ) 種鶏 (育成鶏 ※1)	1羽当たり	470円
イ 企業型		
(ア) 採卵鶏 (成鶏 120日齢超)	1羽当たり	970円
(イ) 採卵鶏 (育成鶏 120日齢以下)	1羽当たり	450円
(ウ) 肉用鶏	1羽当たり	30円
(エ) 種鶏 (成鶏 ※1)	1羽当たり	1,300円
(オ) 種鶏 (育成鶏 ※1)	1羽当たり	600円
(5) うずら	1羽当たり	200円
(6) あひる	1羽当たり	320円
(7) きじ	1羽当たり	320円
(8) ほろほろ鳥	1羽当たり	320円
(9) 七面鳥	1羽当たり	320円
(10) だちょう	1羽当たり	31,900円

家畜の種類、契約区分及び家畜の区分	交付上限単価	
2 焼却・埋却等互助金		
(1) 乳用牛及び肉用牛		
ア 家畜伝染病予防法（以下「家伝法」という。）第 59 条の規定に基づく費用の交付がある場合	1 頭当たり	37,000 円
イ その他	1 頭当たり	74,000 円
(2) 豚		
ア 家伝法第 59 条の規定に基づく費用の交付がある場合	1 頭当たり	2,000 円
イ その他	1 頭当たり	4,000 円
(3) 鶏 ※2	1 羽当たり	80 円
(4) うずら ※2	1 羽当たり	80 円
(5) あひる ※2	1 羽当たり	80 円
(6) きじ ※2	1 羽当たり	80 円
(7) ほろほろ鳥 ※2	1 羽当たり	80 円
(8) 七面鳥 ※2	1 羽当たり	80 円
(9) だちょう ※2	1 羽当たり	3,520 円

※1 種鶏の成鶏、育成鶏の日齢については、家畜防疫互助契約において契約対象農場毎に定める日齢とする。

※2 焼却・埋却等互助金の支払額は、鶏及びその他家きんにあつては、交付対象疾病の発生により死亡又は家伝法第 16 条の規定に基づき殺処分された鶏及びその他家きんとして家畜防疫員等が確認した鶏及びその他家きんの羽数に交付上限単価を乗じた金額を限度として、焼却・埋却等に要した経費の 9 割相当額から家伝法第 21 条に基づく焼却等に対する交付金を差し引いた額とする。